

学校図書館 Take Off!

No.23



本号の目次

報道写真家 片野田 斉さんを迎えて	P. 2
「子どもの本から世界を知ろう！」講演会	
子どもゆめ基金助成事業 読書から広がる子どもの世界	P. 4-5
世界が広がる本を探す読書会	
市内学校図書館見学会レポート	P. 6
要望書を提出	P. 7
情報コーナー	P. 8

楽しい調べ学習

宮本茂

今年の四月から、六年生の家庭科を担当しています。久しぶりの家庭科の授業ということもあり、ワクワクドキドキの毎日です。学年の最後の単元に「持続可能な社会を目指して」というものがありました。これこそ、調べ学習にぴったりの単元で、子どもたちに「よりよい生活をめざして」という大テーマを与え、自分の興味に合わせて調べ学習をしようという提案しました。子どもたちも乗り気で「温暖化」「平和」「お金の使い方」「病気」「防犯」「食中毒」など、多岐にわたって面白いテーマを決めて調べ始めています。

学校司書さんにも協力をお願いして進めています。が、そこで困ることが、学校の蔵書では足りないこと。外部では中央図書館にしか本を頼めず、冊数、日数制限もあるし、司書さんも週に一日しかいないし…。子供たちが楽しそうに調べ学習をしている姿を見て、ごめんね、と心の中で謝っています。

八王子に学校図書館を育てる会のQRコードを取得しました。スマホをかざしてHPへどうぞ。



八王子に学校図書館を育てる会広報紙

二〇一八年二月二日発行 第三号

講演 片野田齋さん

「将来、ともだちになるかもしれないだれかの毎日」そんな素敵なキヤッチコピーのもと出版されている『世界のともだち』シリーズ（偕成社）。このシリーズはカメラマンが世界中の現地の子どもに密着をして、その子がどのような生活を送っているのかを伝えていきます。この夏、中国を担当された報道カメラマンの片野田齋さんにお越しいただきました。

まず、いまだに争いのたえない中東の写真がスクリーンに映し出されました。そこには、わたしたちが日ごろ関わっている子どもたちと変わらない年齢の子どもの姿が、銃を持った大人と一緒にうつっていました。また、自爆テロ直後の写真、銃を空高く突き上げながら歩いている復讐のパレード、父親が脱走し惨殺されて涙を流す少女。目をそむけたく



子どもの本から世界を知ろう！

報道写真家 片野田 齋 さん講演会

平成30年7月14日 於クリエイトホール

なるような現実がそこにはあり、世界はまだまだ平和ではないということを感じる時間でした。命がけで報道写真を撮ったのち、片野田さんは『世界の友だち』のカメラマンの仕事を引き受けます。

初めに主人公探しからスタートするのですが、当時の日中関係はよくありませんでした。「日本人に協力すると子どもの将来が心配だから」という理由で断られることもあり、なかなか主人公が見つかりません。

そんな中、やっと出会うことができたとのがチューチン

という少女でした。チューチンのお父さんはたくさんのお弟子さんがいる水墨の画家、お母さんはお父さんのマネージメントをしています。いつも多くの大人に囲まれているチューチンは周りをよく見ている頭のいい子ですが、とてもお茶目な表情もする女の子です。

学校では個性豊かなクラスメイト



『中国』を撮ったのは…



と過ごしています。人口の多い中国とあって、小学校全体の児童数は二千五百人。知的な障がいをもっている子ども同じクラスと一緒に学んでいるそうです。

講演会の後半は、偕成社の編集者さんも一緒にお話をさせて頂きました。

この『世界のともだち』シリーズは約三十年前に『世界の子どもたち』という名前のシリーズで出版されています。その中にはすでになくなった国もあります。中国は『世界の子どもたち』でも選ばれている国です。「驚いたことに、大人になって日本に来ていた前回シリーズの主人公が銀座の教文館(書店)に遊びに来てくれました。」と、編集者さん。時が経ってもどこかで繋がりが続いている、そんな素敵な縁を感じて、聞いている私自身も嬉しいお話でした。

編集の苦労としては、学校の撮影ができない国があるということでした。例えばフランスやミャンマ



ーです。この国は教育を国が統治しているため、撮影の許可をとるには国を通さなくてはなりません。時間的に難しいため取材を断念し、「学校公開日の様子」を掲載することになりました。また、撮影された写真を選ぶのも一苦勞。カメラマンから連写をそのまま渡されて大変だったこともあるそうです。そして取材で気をつけていたことは、子どもにも撮られたくないときがあるということ。どの主人公も年齢は十歳から十二、三歳の難しい時期のため、そのタイミングにはとても気を遣っていたそうです。会場にはこのシリーズの様々な写真パネルも展示しました。世界中の子どもたちの生き生きとした笑顔が溢れ、とても素敵な空間となりました。

最後に片野田さんはご自身の今後について「写真は記録、芸術ではない。後世に残す写真を撮ってみたい」と仰っていました。そのような志で撮られた写真が載っている本、本物の写真を見定めて、私たちは子どもたちに届けていきたいと思いました。



(一・K)

子どもゆめ基金助成活動

今年度の読書会は「知識の本」をテーマに行いました。読み聞かせと言えば物語になりがちですが、参加者の人数分、身の回りの不思議に気づく楽しい本が集まりました。両日とも講師によるブックトークから始まります。

読書会(知識の本 絵本を中心に) 10月10日

ブックトーク 大島真理子

「身のまわりの命(動物、植物、人間)を考える」

『はるにれ』

写真/姉崎 一馬 福音館書店

『こいぬがうまれるよ』

写真/ジェローム・ウエクスラー

文/ジョアンナ・コール 訳/つばいいくみ 福音館書店

『ふゆめがっしょうだん』

写真/富成 忠夫・茂木 透 文/長 新太 福音館書店

『だって春だもん』

写真・文/小寺 卓也 アリス館

『森のいのち』

写真・文/小寺 卓也 アリス館

『いっしょだよ』

写真・文/小寺 卓也 アリス館

『ふしぎいっぱい写真絵本』

※へびのひみつ

写真・文/内山 りゆう ポプラ社

※たんぼのカエルのだいへんしん

写真・文/内山 りゆう ポプラ社

※クモのいと

写真・文/新開 孝 ポプラ社

『ほしたから・・・』

写真・文/森枝 卓士 フレーベル館

『うまれたよ!だんごむし』

写真/関 慎太郎 構成・文/小杉 みのり 岩崎書店

『すごいね!みんなの通学路』

文/ローズマリー・マカーニー 国際NGOプラン

訳/西田 佳子 西村書店

『ずっとずっとかぞく』

写真/ジョエル・サートレイ

作/アーサー・ビナード

ハーバーコリンズ・ジャパン



読書会（高学年以上向け） 10月17日

ブックトーク 田沼恵美子

『石のなかにはなにがある?』

『あたまにつまった石ころが』

文／ハースト 絵／ステイブンソン

光村教育図書

『やまなし』

文／宮澤 賢治 絵／川上 和生 mikihouse

『石ころ 地球のかけら』

文／桂 雄三 絵／平野 恵理子

福音館書店

『石の中のうずまき アンモナイト』

文・絵／三輪 一雄 写真／松岡 芳英

福音館書店



『石の卵』

文・写真／山田 英春

福音館書店

『こども鉱物図鑑』

著／八川 シズエ 中央アート出版社

参加者持ち寄りの本一覧

	書名	著者	出版社
低学年向け	いろいろはっぱ	小寺卓矢	アリス館
	ずっとずっとかぞく	ジョエル・サートレイ 写真 アーサー・ピナード 文	ハーバーコリンズ・ジャパン
	どんぐりもりのおきやくさん	香山美子	ひさかたチャイルド
	おしりをふく話	斎藤たま 文/なかのひろたか 絵	福音館書店
	おもいやりの絵本	WILLこども知育研究所	金の星社
	フローレンス・ナイチンゲール	デミ 作/さくまゆみこ 訳	光村教育図書
	おもいができた	榎本功 写真	ひさかたチャイルド
	すごいね！みんなの通学路	ローズマリー・マカーニー 文 西田佳子 訳	西村書店
	ちびっこかたつむり	七尾純 作/久保秀一 写真	借成社
	いっしょにあそぼうーアフリカの子どものあそびー	イフェオマ・オニェフル	借成社
はつ恋(LLブック)	藤澤和子	樹書房	
高学年～YA	雲の名前、空のふしぎ	武田康男	PHP研究所
	オーロラの向こうに	松本紀生	教育出版
	外来生物ってなに？	阿部浩志/丸山貴史	ミネルヴァ書房
	カワセミ 青い鳥見つけた	嶋田忠	新日本出版社
	生きものをつなげる石ころ探検	盛口満 文・絵	少年写真新聞社
	日本と世界の祭り	監修/辻原康夫	小学館
	毒と薬(大人のための図鑑)	鈴木勉	新星出版社
	レモンをお金にかえる法	L.アームストロング 著 B.バツン 絵/佐和隆之 訳	河出書房新社
	コルチャック先生 ー子どもの権利条約の父ー	トメク・ボガツキ/柳田邦男 訳	講談社
	希望の牧場	森絵都 作/吉田尚令 絵	岩崎書店
	子どもの権利条約ハンドブック	木附千晶/福田雅章	自由国民社
	わくわく発見！日本の郷土料理	竹永絵里 画	河出書房新社
	知られざる縄文ライフ	譽田亜紀子	誠文堂新光社

十月一日、美山小学校見学。六時間目授業の終わった後、図書室へ。単学級、全校児童五八名の小規模校。学校司書のいる月曜日は、一時間目から六時間目まで全学年の図書の授業に入っている。図書ボランティア組織はないが、日誌により、司書教諭とのやり取りが円滑であるだけでなく、校長・副校長も学校図書館について、把握されている。勤務日に全学年と会えるので、先生とも児童とも話しやすい。資料の依頼や翌週の授業の相談なども担任と話しが早く通しやすいが、行事などがあると、先生も児童も掛け持ちで係り・仕事をしているので、その時期は大変である。児童は一度に二冊の図書を借りられるが、蔵書が少ない為、高学年に読みたい本がないと嘆かれるのが辛いとの事。図書の読み聞かせの他、国語・社会・理科・総合の調べ学習などで授業の連携をしている。

小学校独自のキャラクターを使って、おすすめ本の紹介をしているのが、親しみやすく読書欲をうまく煽っている。

蔵書数は、児童数に対して



学校司書全校配置後の学校図書館

週1回、大規模校と小規模校でどんな差があるの？

足りてはいるものの、分類の配分比率等、図書費も少なく切実な問題のようであった。児童の名前も先生の名前も把握できて、司書の存在が当たり前となっている様子は小規模校ならではの感じだ。

翌十月二日、七国小学校見学。一時間目授業の終わった後、廊下と部屋の壁がない開放的な図書室にて。全校児童八九五名、二九クラスもある大規模校。学校司書は、火曜日勤務、五時間目までは授業



に入り、六時間目は読書クラブ活動又は委員会。(今回は五年生が移動教室でいない時間を頂きました) 図書ボランティアは登録上五〇名程で、常時二〇〇三〇名が参加。活動は月一回、本の修理、昨年から読み聞かせ活動を開始し、全クラスへの読み聞かせも行っている。学校司書を中心とした読み聞かせ勉強会を定期的に持つなど、活動も盛りあがっているようだ。

司書教諭は、基本的に図書室に近いクラス担任が担当するので、やり取りに困ることはほとんどない。何しろ人数が多いので、本の傷みが早いし、激しい。オリエンテーションは、今年は〇年生、来年は〇年

生、というようにしている。蔵書も足りていない為、昨年と今年は各家庭に呼び掛けて寄贈本を募った。ある程度の規定を設け、一定期間で二〇〇〜三〇〇冊の本が集まった。規定のおかげで廃棄になる本はほとんどなく、学級文庫・図書館で概ね活用している。今年度、副校長先生の依頼で、一学期中に若手の先生方にオリエンテーションを行ったところ、授業での活用が進んでいる。中学校の先生とも連携して、学校図書館・学校司書の高学年への活用が盛んである。

週一回の学校司書派遣で大規模校と小規模校にどんな差があるのかと企画した見学会。親密度は違えど、どちらも授業の活用だけではなく学校生活に密接していて、人がいる学校図書館はやはりいいなあと感じる。特に七国の小中連携した授業の進め方には、一驚した。週一回の派遣で。

「始まると早い」と七国の学校司書さんは話す。

それまでは、「調べる学習」の授業に呼ばれる事は少なかったのだが、今年からガラリと変わったようである。学校から切望されても、先生が必要としないと司書は授業には入れない。未だ、読み聞かせが学校司書の仕事と思っている学校が多いのではないだろうか？先生と授業の打ち合わせが出来るなら、同じ四五分の授業でも、内容の濃い充実した授

業が出来るのではないだろうか？この七国小や美山小の高学年が調べ学習を完璧に出来るようになって卒業したなら、中学での授業も更に充実したものになるのではないだろうか。

皆さんの学校は、いかがですか？学校司書と連携した授業に魅力は感じませんか？これが週一回ではなく、毎日図書館に司書が居たらいかがでしょう。

(M・T)

二〇一八年度 要望書の提出

今年度も八王子市教育委員会へ「学校図書館の充実を願う要望書」を提出します。

- ・ 専門・専任・正規の学校司書配置
- ・ 蔵書の充実（図書購入費増）
- ・ 市立図書館の連携による学校図書館支援
- ・ 学校図書館サポートセンターの充実

情報コーナー

☆八王子子ども文庫連絡協議会主催

12月9日(日)クリエイトホール

奥野涼子さんワークショップ

「クリスマスマスの仕掛け絵本を作ろう！」

問合せ・大橋 (042.636.7769)

☆親子読書地域文庫全国連絡会主催

平成31年3月30日(土) 武蔵野プレイス

「子どもの本この一年」

講師・広瀬恒子さん

問合せ・親地連 篠沢 (03.3816.5271)

これからのお予定

平成31年1月26日(土) 10時～12時

いさようホール創作室

代田みち子さん講演

「科学の本と楽しむ科学遊び」

電話・FAX：(桑原)042.637.0178)

E-mail: lib804sodaterukai@gmail.com

〈七日きしが廻つてくるしやまを〉

科学読み物研究会編 連合出版 (2010)

第一部は、家庭文庫・公共図書館・中学校での実践報告、第二部は、科学読物の紹介です。2003～2009に出版された中から、365冊を選んで分野ごとに紹介しています。



会員募集

正会員：…本会のすべての活動に参加できます。

入会金500円、年会費1000円です。

賛助会員：…広報紙やイベントの情報をお届けします。本

会の活動を支援して下さる個人、団体の方。

年会費一口1000円です。

編集後記

学習指導要領に関連付けた学校図書館活用や、子どもの読書推進のための方策を示す「第四次子ども読書活動推進計画」など、子どもたちと本をつなげることの大切さは取り上げられるものの、世の中全体を見ると優先順位は決して高くありません。そろそろ「趣味は読書です」という考えをやめませんか。

(お)